

令和2年度 分担研究報告書

ドナーミルクを安定供給できる母乳バンクを整備するための研究

研究分担者 宮田昌史 藤田医科大学医学部小児科学

研究要旨

本分担研究では、全国の施設に提供可能な母乳バンクの整備に向け諸外国の母乳バンクの運用及び法的規制等の実態調査を行うことを予定していたが、新型コロナウイルス感染症流行のため海外視察などの情報収集は行わなかった。そこで地域でのドナーミルク利用推進のモデルとして愛知県の新生児医療施設で構成される東海ネオフォーラムと協働し、母乳バンクからのドナーミルクを供与しそれを東海ネオフォーラムの各施設で使用する体制構築を開始した。令和3年2月現在、ドナーミルク利用施設は東海ネオフォーラム21施設中3施設で、ドナーミルクを利用する際の費用負担を解決してもドナーミルクの普及が不十分なことが分かった。2021年2月のアンケート調査では多くの施設でドナーミルク使用の倫理審査を進める予定だが、倫理審査が煩雑なことや倫理審査委員会の母乳バンクへの理解が乏しいことが利用へのハードルを高くしていることが分かった。母乳バンクの社会に対するより一層の周知と事務手続きの支援が必要と考えられた。

A. 研究目的

母乳バンク整備およびドナーミルク利用推進のための、地域モデルでのドナーミルク利用体制の整備及びドナーミルク利用に際しての問題点の抽出。

B. 研究方法

愛知県の新生児医療施設で構成される東海ネオフォーラムでドナーミルクを利用できる体制を構築し、各施設でのドナーミルク利用を推進し、利用開始までの過程や利用開始後の問題点を調査する。

C. 研究結果

令和3年2月健在で、ドナーミルクの利用は東海ネオフォーラム21施設中3施設だった。各施設への調査では、多くの施設で倫理審査をすすめドナーミルクの利用を開始する予定であるとしていた。一方、利用が進まない理由として、倫理審査が煩雑であること、倫理審査委員会の母乳バンクへの理解が乏しく倫理審査がすすまない、などがあげられた。

D. 考察

全国的にドナーミルクの利用が普及していない現状があるが、愛知県の状況から費用面の問題が解決されても利用が進みにくい状況があることが分かった。特に臨床現場の忙しい中で倫理審査

などの煩雑手続きや、倫理審査時の倫理審査委員会の母乳バンクへの理解が乏しいことによる倫理審査の停滞などがドナーミルクの利用のハードルとなっていると思われた。

E. 結論

ドナーミルク利用の推進に際しての手続きがスムーズにすすむ状況が必要と思われ、母乳バンクの社会への周知がより一層進むことが必要である。

F. 研究発表

1. 論文発表

該当無し。

2. 学会発表

第3回日本母乳バンクカンファレンス

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当無し。

2. 実用新案登録

該当無し。

3. その他

該当無し。